

これからのプロスポーツ業界で求められる人材要件とは？

：スポーツ産業の進展に伴うローワー・マネジメント層の重要性とその育成課題

総合政策学部国際政策文化学科 3年 飯田伊織

共同研究：菅野大地・半林誠・中垣陸

1.研究目的

欧米諸国を中心にスポーツが巨大な産業となっているが、日本でもそれに追隨してスポーツを有望産業として捉える動きが加速している。その潮流は 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定を契機に、経済的な側面でのスポーツの重要性が日に日に高まり、スポーツ産業が今後の日本経済を牽引する産業の一つになり得るという見解からも見て取れる。このように、「スポーツ産業」が今後日本の経済を支える産業の一つとして発展することへの期待とは裏腹に、スポーツ産業そのものを担う「経営人材」の不足が大きな課題となっている。スポーツ庁の調査によると、スポーツ業界における「トップ・マネジメント（スポーツ組織の最高責任者として組織全体の経営判断を行う）」と、「ミドル・マネジメント（部分的な業務執行の責任者を担う）」に関する人材要件については僅かに述べられているものの、それ以外の「ローワー・マネジメント（組織の監督者層、ミドル・マネジメントのサポートを行う）」などの人材要件等については全く言及されていないのが現状である。そこで、本プロジェクトでは、これまでほとんど明らかにされてこなかったプロスポーツ業界のローワー・マネジメント層の存在や、求められる人材像について検討し、ローワー・マネジメント層の人材に求められる資質・能力の要件について明らかにしていく。

2.結論

本研究ではローワー・マネジメントにおいて、経営理念・フィロソフィー理解、計画実行力、コミュニケーション力、対応力が最も重要であることが明らかとなった。経営理念・フィロソフィー理解については、ビジネスにおいて「何のために、何をするのか」を定めるために重要な要素である。計画実行力やコミュニケーション力についても、社内外を問わず連携を取ることの重要性や、試合運営には欠かせないスキルであることが明らかとなった。また、選手や他スタッフ、サポーターやスポンサー企業等のステイクホルダーに対して気遣う面などから対応力の重要性が明らかとなった。先述したスポーツ業界への注目度の高まりや市場規模の拡大を踏まえても、スポーツに携わる人材の確保は必須であり、そのために人材要件の更なる明確化をスポーツ業界全体が推し進めていくことは不可欠である。必ずしも画一的な人材要件ではなく、プロスポーツクラブやスポーツに関わる企業のそれぞれがどのような要件を経営人材に求めるかという「理念構築」を行うことが今求

められている。

3.活動内容

プロスポーツクラブローワー・マネジメントスタッフ 20 人に対して「スポーツ経営人材育成・活用事業」を基に独自に作成したインタビュー調査・アンケート調査の実施